

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101553	
法人名	有限会社青森福祉サービス	
事業所名	グループホーム上磯	
所在地	青森県青森市小橋字田川93番地1	
自己評価作成日	平成23年8月23日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成23年10月21日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>常に利用者様の立場に立ち、各利用者様の特技や趣味を活かした活動の場を多く持てる環境づくりを行っています。残存能力に応じた役割を担い、お互いに支え合う生活を送っています。また、ご家族には月毎に報告書をお送りし、利用者様の生活の様子をお伝えする事で連携を図っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>重度化や終末期に向けた方針を定めており、早い段階で本人、家族に説明しチームで支援に取り組んでいる。また、職員育成のため、研修委員会を設けて内部・外部研修を行っている。地域との関係性についても町内会に加入し民生委員、消防団員、地域住民との連携ができています。食事に対する意識も高く、おいしい食事を提供していくために、人材を多く配置し、利用者が満足される食の提供を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念を貼り、常に確認したり職員会議等で取り上げ、日々のケア実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を全職員が理解しており、地域生活の継続や地域との交流を図る等利用者本位の理念を作りあげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、事業所で行なう行事に地域の方が参加され交流を図っている。	町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。事業所の行事には町内会の方々、民生委員が設営に協力しており、地域の一員として身近なグループホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回地域に発行している広報誌に認知症についてや支援方法について記載し、理解を深める機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の町会長・民生委員・駐在所・包括支援センター・利用者・家族と話し合いサービス向上に活かしている。	会議には評価への取り組み状況、事業所の近況が報告されサービス向上に向けた意見交換、話し合いが行われている。欠席者には結果を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議等で相談したり、助言を受けながら、サービスの質の向上に努めている。	課題や疑問があった際は電話したり直接出向くなどして常に連絡を取り、協力関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを前提に取り組んでいるが、夜間帯に限り施錠を行なっている。	職員会議や内部研修、外部研修により身体拘束をしないケアについてよく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、管理者及び職員は高齢者虐待について理解し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修を行い、管理者及び職員は活用できるように理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書類の中で説明し、掲示板に掲示して、利用者・家族の理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が出た場合は、2ヶ月に1度の運営推進会議に参加していただいたり、面会時等はその都度各ユニットで話し合い各会議等で伝えるようにしている。	面会時など、本人、家族から意見・要望があれば管理者に報告し、職員会議で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度主任会議及び職員会議など常に職員の意見を聞ける体制をとっている。	人事考課の機会に個別に面談するなど職員の意見、提案を聞ける体制を取っている。また、出された意見、提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績のある職員、努力している職員には、資格取得の研修を受講させ、格付けを上げ、給料アップ及び手当を支給している。 また、休憩室を設け、環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修や外部研修に参加させ、全職員で受講できるようにし、職員の育成を図っている。 内部研修を行いスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修会に参加したり、同じ地域のグループホームとお互いの行事に参加し合って交流を図り、サービスの質向上をさせていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを取りながら家族・本人からの不安や要望を聞き安心して生活できるサービスの提供ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、本人・家族にサービス内容を説明し了承を得ていると同時に不安・要望等を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、居宅介護事業者のケアマネージャーと相談し暫定のケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する中で本人が今まで経験してきた事、知識から職員も学びより良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告書で状況や変化を伝え、行事等の参加を促し本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から聞いた思い出話をしたり、本人の希望で家族の写真を居室へ飾ったり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	家族が馴染みの美容院に連れて行ってくれたり、自宅に泊るなど馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を見ながら毎食ホールで一緒に食事をしたり、健康体操へ参加を促したり、1日1回利用者同士集まる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、いつでも事業所へ来て相談していただきたい旨を伝え、支援に応じる事を話している。 入院中のお見舞い等をし、相談・支援に応じる事を話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常会話の中から、意向を伺ったり、家族から伺ったりしている。 会話の困難な方は表情や仕草から思いをくみ取り、職員間で話し合い、把握に努めている。	日々の関わりの中で、会話や表情などから意向を理解するとともに職員間でも話し合い、生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、家族から情報を収集し生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護日誌・申し送りやスタッフとの話し合いで心身状態・現状の把握を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回モニタリングを行い、本人の意向を考えたより良く暮らすための介護計画作成に努めている。	日常的な関わりの中で本人や家族に確認しながら職員全員で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個人ケース・申し送りノート等を記入、情報を共有し、ケアカンファレンスを行い実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の自己決定を尊重し、その場に合ったサービスを提供し、支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関への受診を支援している。受診が困難な時は医療機関と相談しながら往診等の支援を行なっている。	本人、家族の希望する医療機関への受診を支援している。受診が困難な場合は医療機関の協力を得て往診が受けられる体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の往診時、担当看護師に状態、情報を伝え相談し適切な指示が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活状態を病院関係者に伝え、安心して過ごせるよう支援している。 家族とも情報を共有し、今後の対応についても相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のマニュアルを作成し、家族の同意を得て医療機関、家族と話し合いを持ち、家族の意向に添えるよう支援している。	終末期の対応に関する指針を定めており、家族の同意を得て医療機関と話し合いを持ち、家族の意向に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、確認し合い、周知徹底を図っている。 内部研修では救命講習を行なって全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回利用者と共に避難訓練を行なっている。 地域の消防団員の協力を得て夜間を想定した訓練も行なっている。	避難訓練は年3回消防団、地域住民の協力を得て実施している。夜間を想定した避難訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を行い、利用者の人格尊重・プライバシー確保について、話し合い、利用者の立場に立って接するよう努めている。	職員は内部研修受講により個人情報保護法の理解を深め、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望、得意とする活動が自然にできるよう働きかけ、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて起床・食事・散歩等を本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理・美容来園時には本人や家族の希望を伝えて散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて調理し盛り付けている。利用者が準備や食事の片付けを行う場合は状態に合わせて行っている。	アンケート調査を行い、一人ひとりの好みを把握しており利用者の状態にあわせて調理している。楽しく和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた調理方法や工夫をしている。(おかずを刻む、トロミを付ける)等して、食事や水分補給ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きの声掛け介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、トイレの声掛け誘導を行っている。	排泄パターンを把握しており、さりげない声掛け、誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせて、飲食物で予防したり、運動への働きかけをしている。 便秘が続く時は、主治医に相談し、下剤等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回行っている。各ユニットごとに曜日・時間帯が違うため、本人の希望があれば別ユニットでも入浴ができる。	入浴は週3回行っている。各ユニットごとに曜日、時間帯が異なっているため、希望があれば個々に応じた支援ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて居室で安心してゆっくり休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師からの情報を日誌・申し送りノート、場合によっては口頭で職員が共有している。 変化がある場合は医師・薬剤師に確認し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある日々を過ごせるように、生活歴や能力を活かして、食器拭きを手伝ったり、食事の盛り付け等の役割を持っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やその日の希望によってドライブや買い物を検討し、支援に努めている。本人の希望を家族に伝え、外出したり、地域の行事に参加したり、外出の機会を作っている。	一人ひとりのその日の希望にそってドライブや買い物の支援をしている。また、地域の漁港まつりに出かけたり外出する機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と金銭管理について相談し、本人の希望・力量に応じてお金を所持し、買い物・外出で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話・手紙ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感のある飾付けをしたり、洗面所・玄関には季節の花を飾ったりしている。 テレビの音は雰囲気に合わせて調整している。	玄関は季節感のある花を飾るなど工夫されている。食堂と居間の空間が殺風景であり、生活感があまり感じられない。	居間にはテレビが置かれたり利用者の書が飾られているが若干殺風景なので、もう少し家庭らしい雰囲気づくりをすることに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いて、馴染みの利用者同士や職員も一緒に会話をしたりゆったり過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵を描くのが趣味だった利用者は、絵の道具を持参したり、テレビ・ワープロなどを使用している利用者もいる。	居室は使いなれた家具や写真、仏具などが置かれ、落ち着いた生活ができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・居室はバリアフリーとなっており、車椅子の方でも自操し、安全に移動できるよう付き添っている。 廊下・トイレ・浴室には手すりをつけている。		